

神様・佛様・御先祖様

令和六年 甲辰（きのえたつ） 歳

令和六年一月法話 薬師寺 管主 加藤朝胤

「元号」である「令和」の名前は、『万葉集』から引用された。

大化 西暦六四五年 令和 西暦二〇一九年五月一日 午前〇時を挟んで

平成三十一年から令和元年に改元される 二四八番目

干支（えと）

き ひ つ か み

五行 え木と え火と え土と え金と え水と

十干 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

十二支 子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

「甲」は第一で、最も優れた物事をいう。また、種子の外皮や亀の甲羅のような堅い殻に覆われた種の状態を表している。

「辰」を「竜」としたのは庶民に十二支を浸透させる為に動物の名前を当てたものといわれているが根拠は定かではない。

「竜」（りゅう、りょう）は、中国神話の生物。伝説上の生き物。古来神秘的な存在として位置づけられてきた。天子、優れた人、大きい、明らかという意味がある。旧字体は「龍」であるが、字は「竜」の方が古く、甲骨文字から使われている。

竜は神獣・霊獣であり、麒麟・鳳凰・霊亀とともに「四霊」のひとつとして中国では皇帝のシンボルとして扱われた。水中か地中に棲み、その啼き声によって雷雲や嵐を呼び、また竜巻となって天空に昇り自在に飛翔するといわれる。

南宋時代の博物誌『爾雅翼』に竜の姿は、首と腕の付け根と腰と尾の各部分の長さが等しく、角は鹿、頭は駱駝、眼は鬼（幽霊）あるいは兔、身体は蛇、腹は蜃、背中の鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎、耳は牛に似るといふ。また口辺に長髯をたくわえ、喉下には一尺四方の逆鱗があり、顎下に宝珠を持っていると言われる。秋になると淵の中に潜み、春には天に昇るとも言う。

竜には九匹の子どもがいて、成長しても竜にはならない。それぞれ特異な才能を発揮して親竜を助け、人間界に親しまれている。後に人間世界も複雑になり、九子では忙しくなり、更に四匹の子どもをもうけた。

① 鼃負（ひき、びし） 形状は亀に似る。重きを負うことを好む。何処へ行くにも重い荷物を背負う。

② 螭吻（ちふん） 形状は獣に似ている。遠きを望み四方を見渡す。波を起こし、雨を降らし、火災を防ぐ。名前を変えて鴟尾（しび）と呼ばれることもある。

③ 蒲牢（ほろう） 形状は竜に似ているが、体は小さい。吼えることを好むことから梵鐘の上に置き、鐘を撞くとよい音が出るように願った。（梵鐘の竜頭）

④ 狴犴（へいかん） 虎に似ていて、正義の味方である。牢獄の門の上から下を睨み、佛教という閻魔大王の様なもの。

⑤ 饕餮（とうてつ） 首はあるが体はない顔だけの竜で、大食漢で美食家。その為青銅器の鼎に多く使用される。財産を傾けてまで飲食する人を「饕餮の徒」と戒めている。（銅製鼎の模様）

⑥ 睚眦（がいし、がいさい、やず） 竜に似ているが凶暴で殺すことを好む。武器の裝飾（鎧の袖口・ベルトのバックル）に多く用いられる。

⑦ 狻猊（さんげい） 形状は獅子に似ていて二本の角を持ち鬚を生やしている。煙や火を好み、香炉の脚部で座るのを常としている。（香炉の足）

⑧ 椒圖（椒圖、しょうず、じょくと） 形状は貝にも蛙にも似ている。温和な性格で、扉の上に描かれ（ドアノックの裝飾）悪の侵入を防ぎ安全を守る。

⑨ 囚牛（しゅうぎゅう） 末っ子の囚牛の体は黄色で小粒。天界の規則を度々犯し、親からも見放され人間界に落とされる。また殊の外音楽を愛したので弦楽器の頭部に飾られている。（琵琶・二胡）

⑩ 蚣蝮（虫八 虫夏 蚺蝮・はか） 蚣はむかで、蝮はまむし。水を好み橋を守り水害が人々に及ばないよう川を跨ぐアーチ状の最上部に飾る。

⑪ 嘲風（ちょうふう） 冒険を好み、危険な所へも平気で登り、遠くを眺めて見張り役をしている。大きな三日月型の角が特徴である。屋根の先端や高い塔の壁に居る。

⑫ 負質（ふしつ） 文字を好む。石碑の上部に頭部を左右下向きにして片足で玉を抱き、文字を見ている。石碑の前後に四竜として彫刻されている。

⑬ 螭首（ちしゅ） 建築物の四隅に居て、水平に頭をもたげ足で踏ん張って口から水を噴出する。池の導入口にもよく見かける。防火に勤めている。（石製雨樋の注ぎ口）